

かがわ里海大学 2021 スキルアップ講座「海ごみリーダー養成講座」

日 時：令和3年（2021年）11月13日（土）9:30～14:00

場 所：直島ホール・研修室（室内講習）、宮浦海岸（現地講習）

講 師：一般社団法人 JEAN 小島 あずさ 氏

受講者数：18名

11月13日土曜日、直島で「海ごみリーダー養成講座」を開催しました。

この講座は、世界的な問題となっている「海ごみ」の発生抑制活動に携わるリーダーを増やし、この問題解決のための普及啓発活動を推進することを目的としています。

午前の講座は、海ごみに関する基礎知識として海洋ごみの問題点や海ごみ調査の方法について講師から話がありました。

国内だけでなく、世界の海ごみ問題の例やプラスチック、マイクロプラスチックの問題点、海ごみイベント開催時の留意点などについて多くの写真を用いて説明がありました。



講座の様子



海ごみの移動と拡散



海ごみによる生物への影響



質問、意見交換

午後の講座は、現地実習で海岸へ行き、ごみの量を簡易に調べる「水辺の散乱ゴミ指標評価手法」、ごみの種類を調べる「International Coastal Cleanup=ICC（国際海岸クリーンアップ）」の2つの調査を行いました。

ICC手法の調査ごみ拾いは、回収した漂着ごみを45品目に分類してその個数を数えます。ごみの個数を自ら調べる事で海ごみの実態を知ることにつながることや、世界共通の調査方法であり、他地域や他国との違いや経年変化を知ることが出来ます。海ごみは拾うだけでは解決することが出来ない問題であるため、ごみは発生源を断つ必要がある事からもICC調査で調べるごみ拾いの良いところだと考えられている事などが講師から説明がありました。

一見きれいな海岸に見えたけれど、良く見てみると色々な種類のプラスチックごみがあることや細かく破片化したごみが多いことに参加者は気付いているようです。（多かったごみの種類：①カキ養殖用まめ管 272個、②硬質プラスチック破片 180個、③発泡スチロール破片 146個）

今回の受講生から「地球環境に対する私たちが果たすべき責任というものをより一層持つことができた」「実際にごみ拾いをする事で、ごみ問題についてよく理解できた」などの感想がありました。

受講生には、高校生や既にビーチクリーンアップを主催している団体の方々、これから海ごみを削減する活動に携わろうと考えている方々が多くいましたので、今後、海ごみリーダーとしての活動や活躍が期待されます。



ICCの手法説明



海岸でごみを拾う



拾ったごみの種類を調べる



多く見つかったカキ養殖用パイプ